

## 復活の主日

2010.4.4.

ご復活祭おめでとうございます。

今日私たちは教会の典礼の暦の中で、その中心に位置する最も大きな祝日を祝っています。教会の典礼の暦が復活祭のこの日を一年の中でも最も盛大に祝うのは、それが、私たちの信仰の中心であるイエス・キリストの復活を祝う祭りだからです。毎年この復活祭の典礼にあずかることによって、私たちは、私たちのキリスト者としての信仰がどのようなものであるのか、私たちが信じているイエス・キリストがどのようなお方であるのかということ、喜びのうちにあらためて確認するよう招かれています。

今日私たちがその復活を祝うイエス・キリストは、私たち人類の歴史の中に、私たちと同じ一人の人間となって、十字架の死に至るその人生を生きられた神の子、この私たちの世界に、私たち全ての者の救い主としてそのお姿を示してください、人となられた神です。私たちが信じるキリスト教の信仰は、そのようなお方としてイエス・キリストを信じる信仰です。

人類の歴史がこのことをはじめて知ったのは、イエスの死後、その弟子たちがこのようなイエス・キリストへの信仰を宣教によって伝え広め始めたからです。十字架の上にイエスを見捨てて逃げ去った弟子たちが、このようなイエス・キリストへの信仰を世界に向かって宣教できるようになったのは、聖書に語られていることによれば、十字架の上に死んで、墓に葬られたイエスが生前のことば通り、三日目に復活して弟子たちのもとに現れてくださったからです。イエスの弟子たちが伝え広めたイエス・キリストへの信仰は、まずはじめにイエス・キリストの弟子たちの心に宿った信仰ですが、それは弟子たちの中から生み出されたものではなく、復活されたイエス・キリストが弟子たちの心に灯してくださった信仰の光です。復活されたイエス・キリストが弟子たちの心の闇の中に灯してくださった信仰の光の中で、弟子たちは彼らがつき従って来た、彼らの師であるイエスが語られていたことの全てをはじめて理解することが出来たのです。弟子たちが復活されたイエス・キリストによってもたらされた信仰の光の中で理解することが出来るようになったイエス・キリストは彼らの聖書であった旧約聖書の中に記されている、神の救いの約束を実現するために、神のもとから遣わされたメシア、救い主であったのです。イザヤ預言者が告げていた苦難のしもべとして十字架の上に死なれたイエス・キリストはその死によって全ての人の罪を贖う神の子羊であったのです。神がアブラハムに与えられた祝福、神がモーセを通してお与えになった律法、神がダビデ王になされた約束は、全てイエ

ス・キリストにおいて実現したことを、弟子たちはその信仰の光の中で理解したのです。全旧約聖書は、アダムから始まる全人類の創造主である神への反逆の結果、人類が自ら招いた罪への奴隷状態から人類を解放する、神の救いの歴史として理解され、その神の救いのご計画は、人となってこの世界に来られた神の子イエス・キリストにおいて、その十字架の死と復活によって決定的に実現したことを、弟子たちはイエス・キリストによってもたらされた信仰の光の中で理解したのです。

このようなイエス・キリストへの信仰を伝える、弟子たちの宣教活動によって、復活されたイエス・キリストが弟子たちの心のうちに灯された信仰の光は、旧約聖書の信仰を生きるユダヤの人々の枠を超えて、多くの人々の心の内にも点火され燃え広がって行ったのです。けれどもそのようなことは、人間としての弟子たちの宣教の努力だけの結果ではありません。「わたしはあなたがたを全世界に遣わす。わたしは世の終わりまでいつもあなたがたとともにいる」と言われたイエス・キリストとともにおられる聖霊の働きによることです。聖霊こそは、復活されたイエス・キリストが弟子たちの心に灯してくださった信仰の光を燃え広がらせる炎そのものです。

昨夜の復活徹夜祭の典礼の中で行われた光の祭儀は、復活されたイエス・キリストが弟子たちの心の中に灯してくださった信仰の光が、その典礼にあずかる私たち一人ひとりの心にまで、灯し続けられ、伝え続けられて来たことを象徴的に表す教会の典礼の一部です。昨夜の復活徹夜祭では、今年も多くの方々が求めてこられた教会の信仰を受け入れることを表明されて洗礼の秘跡をお受けになりました。徹夜祭の最初に行われた光の祭儀は、神なる聖霊が、教会の洗礼の秘跡において教会を通して今も行い続けていてくださることを象徴的に表しています。私たちは皆、洗礼によって復活された主イエス・キリストがこの世界にもたらしてくださった信仰の灯火を受け継がせていただいたのです。そしてそれは、私たちの心を開き、私たちを促して洗礼に導いてくださったイエスの霊、聖霊の働きによることなのです。

今年のご復活祭は満開の桜のもとで迎えることが出来ました。満開を迎える頃の先週の春の嵐は、多くの人々の気をもませましたが、花びらが枝にしっかりと繋がって、いのちにあふれる春の樹液の補給を受けているかぎり、どのような嵐に見舞われても、むざむざと散ってしまうことはありません。嵐に耐えたご復活祭の桜の花が、イエス・キリストの復活によってもたらされた私たちのキリスト者としての信仰を象徴するものであることを願いたいと思います。

十字架の上に死なれ、墓に葬られ、三日目に復活されたイエス・キリストへの信仰は、私たちに何をもたらすのでしょうか。イエス・キリストの復活によって弟子たちの心に灯された信仰の光が私たちに伝えた全てのことを私たちにもた

らすのです。願わくは、洗礼によって、私たちのうちに灯されたこの信仰の灯りが、この世の生活の重荷によって私たちの心を閉ざす闇を追い払うに足るだけの火力を私たちのうちに保ち続けるものでありますように。

復活祭を祝うこの季節は花の季節であり、芽吹きの時であるとともに、種まきの季節でもあります。洗礼によって私たちの中に蒔かれた種が、道端や石ころだらけの土地やいばらの中に落ちるのではなく、私たちの心の中の肥沃な土地に受け止められて、豊かな実りを結ぶものとなるよう、最善の注意を払って育ててゆきたいと思います。蒔く者と水をやる者との努力もさることながら、成長そのものをお与えになる、神の大いなる恵みをともに祈り求めたいと思います。

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高

高円寺教会の主日の説教はインターネットで読むことができます。

高円寺教会ホームページ <http://www.koenji-catholic.jp/>